

社会福祉法人 同和園 令和2年度事業報告書

【 総括 】

1. 同和園創設100周年に向けた取り組み

100周年記念誌の編纂、令和3年12月11日（土）の記念式典などの「100周年記念事業」の企画を100年委員会が中心となって進めた。

2. 多様な価値観を活かすマネジメント体制の構築に向けての施設における担当介護主任制の導入

特別養護老人ホームにおいて、担当介護課長室に令和2年8月より担当介護主任を配置し、担当介護課長とともに重層的なマネジメントができるよう体制強化した。

3. ケアサービスの多職種協働の実践

自立支援のために情報共有の在り方を再確認することで、多職種協働によるケアの実践に向けて取り組んだ。

4. キャリアパスと人材育成

①キャリアパス体制の再構築の準備を進めた。

②新型コロナウイルス感染予防対応のため、外部講師による研修を予定通り実施出来なかったが、新規及び中途採用者について内部研修を行い、人材育成に努めた。

5. 同和園施設内保育園「ちくりん」の休止

平成25年に開設した、施設内保育園「ちくりん」の令和2年度の平均稼働率が21.4%（令和元年度38.1%）となり、子育て世代の職員利用が減少していることを踏まえ、役割を一定終えたと判断し、年度末をもって休止している。

6. 稼働率の向上に向けた対応

①特別養護老人ホームの新規入居を円滑に進めるため、入居候補者の照会、選考過程の見直しを図った。しかし、新型コロナウイルス感染対応による影響、退所者の増加（令和2年度64名：令和元年度56名）もあり、稼働率100%となる状況には至らなかった。

②デイサービス事業において、新型コロナウイルスによる利用控えもあり、稼働率向上を図ることが出来なかった。

7. 財政基盤の強化

特別養護老人ホーム、デイサービスの稼働率が目標に達しなかったため、財政状況の改善に至らなかった。

8. 人材確保対策

- ①新型コロナウイルス禍の中、採用活動にも影響があり、令和2年度の新卒採用者は8名、中途採用者についても例年より少ない状況であった。
- ②外国人留学生のアルバイト、同和園独自の奨学金制度を活用している奨学生のアルバイトなど、採用に繋げることが出来た。

9. 新型コロナウイルス感染予防対策

令和2年度当初から、感染予防対策を講じる中で事業活動を行った。

①ご利用者への影響

- ・ご入居者の感染予防のため、外出制限及び面会制限措置を一年を通じて継続実施した。
- ・施設に新規入居するまでの手続きに多くの時間を要するケース、感染の心配から最終的に入居を控えるケースがあった。
- ・居宅サービス利用者が利用を控えるケースもあった。
- ・井戸端ステーション、オレンジサロンなどの地域での協働活動を自粛し、定期的な開催を見送った。

②感染予防対応

園内危機管理対策会議を定期的に行い、感染予防対応について、協議しマスク、消毒液などの衛生材料の確保、オゾン発生装置等感染対策として効果のある機器を設置した。

③当園における感染状況

居宅サービス利用中の1名が自宅において感染され、濃厚接触者と認定された居宅介護支援事業所のケアマネジャー1名が感染したが、事業所の他の職員はPCR検査の結果、全員陰性と確認され感染拡大することなく終息した。

④他施設への応援

感染対応が必要となった法人外の2施設への応援として、当園の職員を派遣し支援した。当園独自に1施設延べ5日間、また、京都市・京都府・京都市老人福祉施設協議会のネットワークに協力して延べ13日間派遣した。

⑤採用活動への影響

新規採用職員は8名、中途採用者職員も例年より少なく、対面での説明会が出来ない影響も考えられ、また、予定していたミャンマーからの技能実習生の採用が国内情勢もあり延期となるなど、人材確保が困難な状況が継続している。

【 施設部 】

〈 特別養護老人ホーム 〉 〈 養護老人ホーム 〉 〈 短期入所事業 〉

1. ケアの質の向上

専門職によるチームケアの実践において、ご入居者の生活全体像をアセスメントし、評価を行い個々のニーズに沿ったケアの質の向上に取り組んだ。

2. 多職種協働の実践

自立支援のために情報共有の在り方を再確認し、多職種協働にてその専門性を発揮することで、ご入居者の生活がより豊かになるよう取り組んだ。

3. 職員教育

トータルリスク委員会の研修活動から幅広くリスクマネジメントの観点から学べる機会を確保し、ご入居者が安心できる暮らしの実現に取り組んだ。また、介護技術の向上や認知症ケアの実践では外部講師による研修会を定期開催し、ケアの専門性の向上に取り組んだ。

4. 活動・参加の提供

ご入居者個々の活動、参加向上のためのケアプランをもとに多職種と連携しながら活動、参加の場を意識したケアを実践した。ただ今年度は新型コロナウイルス感染予防対策の為、活動・参加の提供は縮小傾向となったが、関係職で試行錯誤しながら取り組んだ。

5. 健康管理

①医療の専門職を中心とした看護ケアの気付きを多職種で共有し、予防的介護、看護に努め、ご入居者の重症化、活動の低下を予防した。

②新型コロナウイルス感染症の予防対策を早急に講じる為、園内に危機管理対策委員会を設置し感染予防に取り組んだ。

〈 特別養護老人ホーム 〉

①介護度の分布

| | 要介護1 | 要介護2 | 要介護3 | 要介護4 | 要介護5 | 合計 | 平均 |
|---------|------|------|------|------|------|-----|-----|
| 令和2年3月末 | 0 | 0 | 78 | 105 | 68 | 251 | 3.9 |
| 令和3年3月末 | 1 | 0 | 96 | 106 | 68 | 271 | 3.9 |
| 対 比 | 1 | 0 | 18 | 1 | 0 | 20 | |

②退去者・新規入居者の介護度の分布（特別養護老人ホーム）

| | 要介護1 | 要介護2 | 要介護3 | 要介護4 | 要介護5 | 合計 | 平均 |
|-----|------|------|------|------|------|----|-----|
| 新 規 | 1 | 0 | 38 | 27 | 17 | 83 | 3.7 |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|---|----------|------------|------------|------------|-----|
| 退 所 | 0 | 0 | 16 | 26 | 22 | 64 | 4.1 |
| 内、園内にて死亡 (看取り加算) | 0 | 0 | 9 (5) | 20 (18) | 19 (13) | 48 (36) | - |
| 内、園外にて死亡 (看取り加算) | 0 | 0 | 6 (0) | 3 (0) | 2 (0) | 11 (0) | - |
| 内、療養型等の病 院へ転寮 (退居) | 0 | 0 | 1 | 3 | 1 | 5 | - |
| 内、在宅復帰 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - |

③稼働率・延べ人員 (特別養護老人ホーム) (定員 272 名)

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 | 平均 |
|----------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|
| 月末人数 | 251 | 253 | 251 | 260 | 260 | 264 | 268 | 264 | 267 | 268 | 266 | 270 | 3142 | 262 |
| 延人数 | 7524 | 7775 | 7515 | 7817 | 8039 | 7813 | 8193 | 8009 | 8188 | 8296 | 7443 | 8272 | 94884 | 7907 |
| 入所 | 7 | 5 | 7 | 15 | 3 | 11 | 10 | 6 | 7 | 3 | 3 | 6 | 83 | 6.9 |
| 退所 | 7 | 3 | 9 | 6 | 3 | 7 | 7 | 9 | 4 | 3 | 4 | 2 | 64 | 5.3 |
| 稼働率 | 92.2 | 92.2 | 92.0 | 92.7 | 98.5 | 95.7 | 97.1 | 98.1 | 97.1 | 98.3 | 97.7 | 98.1 | | 95.6 |
| 定員 304 名稼働率 | 82.5 | 82.5 | 82.4 | 82.9 | 85.3 | 85.7 | 86.9 | 87.8 | 86.9 | 88.0 | 87.4 | 87.8 | | 85.5 |

令和元年度延利用人数 89997 名

令和元年度平均稼働率 (定員 272 名) 88.8%

(定員 304 名) 80.9%

< 養護老人ホーム (特定施設入居者生活介護を含む) >

①入居者の異動状況

| | 養護老人ホーム |
|----------|---------|
| 定員 | 90 |
| 退所者 | 13 |
| 内、園内にて死亡 | 3 |
| 内、園外にて死亡 | 3 |
| 内、特養へ転寮 | 5 |
| 内、療養型へ転寮 | 1 |
| 内、在宅復帰 | 1 |
| 新規入居者 | 13 |
| 延べ人数 | 32,369 |

②月入所人数・延人数

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 | 平均 |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|
| 入所人数 | 90 | 90 | 90 | 90 | 90 | 90 | 90 | 90 | 90 | 90 | 90 | 90 | 1080 | 90 |
| 延人数 | 2642 | 2790 | 2674 | 2769 | 2709 | 2585 | 2777 | 2649 | 2781 | 2751 | 2514 | 2728 | 32369 | 2697 |
| 平均利用人数 | 88.1 | 90 | 89.1 | 89.3 | 87.4 | 86.2 | 89.6 | 88.3 | 89.7 | 88.7 | 89.8 | 88.0 | - | 88.7 |

③月契約人数・延人数（特定施設入居者生活介護のみ）

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 | 平均 |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|
| 契約人数 | 47 | 48 | 48 | 48 | 48 | 48 | 48 | 48 | 47 | 47 | 47 | 46 | 570 | 47.5 |
| 延人数 | 1380 | 1488 | 1412 | 1378 | 1425 | 1411 | 1476 | 1425 | 1444 | 1426 | 1316 | 1387 | 16968 | 1414 |
| 平均利用人数 | 46.0 | 48.0 | 47.1 | 44.4 | 46.0 | 47.0 | 47.6 | 47.5 | 46.6 | 46.0 | 47.0 | 44.7 | - | 46.5 |

< 短期入所事業所 >

①事業実績（定員 24 名）

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 | 平均 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|-------|
| 実人員 | 68 | 61 | 63 | 67 | 62 | 67 | 63 | 64 | 66 | 62 | 65 | 66 | 774 | 64.5 |
| 延べ人数 | 558 | 521 | 510 | 544 | 522 | 537 | 536 | 504 | 558 | 531 | 489 | 541 | 6351 | 529.2 |
| 平均人数 | 18.6 | 16.8 | 17 | 17.5 | 16.8 | 17.9 | 17.2 | 16.8 | 18 | 17.1 | 17.4 | 17.4 | - | 17.4 |
| 稼働率 | 77.5 | 70 | 70.8 | 73.1 | 70.1 | 74.5 | 72.0 | 70 | 75 | 71.3 | 72.7 | 72.7 | - | 72.5 |

令和元年度平均延べ人数 551 名

令和元年度平均稼働率 75.4%

【 在宅部 】

〈 同和園デイサービスセンター 〉

1. ケアの質の向上

朝夕のミーティングにおいて情報共有、課題の抽出を行い、ご利用者や関係者と連携し整理していくことができた。ご利用者の状態によっては、その場でミニカンファレンスを実施しかかわりについて整理確認を行うことができた。ケアの実践継続については確認が不十分であり、ケアプランとケアの実践が連動していない事例もあった

2. 職員体制の充実と稼働率の向上

- ①出勤者による体制の充実を図り、効果的、効率的なシフトへの移行を進めた。また、空き情報については定期的に居宅介護支援事業所へ発信し、担当ケアマネジャーと密接に情報共有を行った。
- ②体験時の食事代は無料とし、体験利用しやすい環境づくりを行った。
- ③入院者の増加や感染症による利用自粛等により、稼働率の向上に繋げることが出来なかった。

3. 新たなプログラムの実施

- ①感染予防のため、外出企画等の年中行事を例年通りにできなかったが、換気や消毒など感染対策を十分に実施した上、新たに今までにないドライブ外出を行った。
- ②新たなプログラムの実施に向けてチーム編成を行い、個別ニーズについて聞き取り働きかけることが出来た。

4. 機能訓練

- ①定期的に多職種による会議を開催し、情報共有や課題の整理により、ニーズに沿った訓練を実施することができた。機能訓練指導員による自宅訪問は予定件数の半分にとどまった。緊急事態宣言発令以降は訪問を自粛した。

事業実績 同和園デイサービス《竹》(定員 65名)

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 営業日数 | 30 | 31 | 30 | 31 | 31 | 30 | 31 | 30 | 29 | 28 | 29 | 31 | 361 |
| 最大利用可能人数 | 1950 | 2015 | 1950 | 2015 | 2015 | 1950 | 2015 | 1950 | 1885 | 1820 | 1885 | 2015 | 23465 |
| 延 利 用 人数 | 1326 | 1373 | 1317 | 1404 | 1378 | 1348 | 1483 | 1312 | 1439 | 1286 | 1291 | 1417 | 16374 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 一月当たり 実人員 | 164 | 164 | 160 | 165 | 164 | 169 | 185 | 175 | 179 | 174 | 171 | 173 | 2043 |
| 一日当たり 利用人数 | 44 | 44 | 43 | 45 | 44 | 44 | 47 | 43 | 49 | 45 | 44 | 45 | 47 |
| 稼働率 | 68.0 | 68.1 | 67.5 | 69.6 | 68.3 | 69.1 | 73.5 | 67.2 | 76.3 | 70.6 | 68.4 | 70.3 | 69.7 |

※ 合計欄のうち、一日当たり利用人数及び稼働率は年間平均

※ 令和元年度平均稼働率 80.7%

〈 西野の家「はなさんち」認知症対応型通所介護事業所 〉

1. ケアの実践

- ①定期的に勉強会を開催し、基本的な認知症の知識と接遇を含めたケアのあり方を学び、日々のケアに繋げることが出来た。
- ②調理ケアのマニュアルを見直したことで、目的を再確認することができ、共通認識を持ってケアが出来た。
- ③ケアの偏りが最小限になるようミーティング等で共有したが、統一できていない部分は次年度への課題となった。

2. 地域ネットワークの形成

- ①新型コロナウイルス感染予防の為に地域での活動を行うことは出来なかった。
- ②運営推進会議については書面配布という形で開催した。

3. 家族支援

- ①新型コロナウイルス感染予防の為に家族懇談会は開催を見送ったが、日々の送迎時での関わりや電話等での相談には対応でき、関係事業所とも連携することが出来た。
- ②満足度調査を行い、ニーズ把握に努めた。

4. 事業所間連携

新型コロナウイルス感染予防の為に山科エリアで行事や交流は積極的に出来なかったが、感染症対策の共有や、職員の協力体制をとることが出来た。

事業実績 (定員 12 名) (認知症対応型通所介護利用状況)

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 |
|--------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 営業日数 | 25 | 26 | 26 | 27 | 26 | 26 | 27 | 25 | 25 | 24 | 24 | 27 | 308 |
| 最大利用 可能人数 | 300 | 312 | 312 | 324 | 312 | 312 | 324 | 300 | 300 | 288 | 288 | 324 | 3696 |
| 延利用人 | 269 | 279 | 287 | 277 | 280 | 274 | 280 | 272 | 286 | 271 | 266 | 292 | 3333 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 数 | | | | | | | | | | | | | |
| 一月当たり実人員 | 31 | 30 | 32 | 33 | 31 | 30 | 32 | 32 | 33 | 34 | 33 | 30 | 381 |
| 一日当たり利用人数 | 10.8 | 10.7 | 11 | 10.3 | 10.8 | 10.5 | 10.4 | 10.9 | 11.4 | 11.3 | 11.1 | 10.8 | 10.8 |
| 稼働率 | 89.7 | 89.4 | 92 | 85.5 | 89.7 | 87.8 | 86.4 | 90.7 | 95.3 | 94.1 | 92.4 | 90.1 | 90.2 |

※ 合計欄のうち一日あたり利用人数及び稼働率は年間平均

※ 令和元年度平均稼働率 90.3%

〈 日野の家「げんさんち」通所介護事業所 〉

1. 在宅生活を意識したケアの実践

新型コロナウイルス感染症予防の為、活動内容を変更しながら新たなプログラムを通して、ご利用者が役割を持ち、やりがいを持って活動することが出来るよう支援することが出来た。

2. 認知症ケアの充実

毎年行っている認知症勉強会を行うことが出来なかったが、できる限り日々のミーティングや全体会議を通じてケアの検討を行いご利用者の過ごしに結び付けることが出来た。

3. 介護者支援・他事業所との連携

介護者懇談会の開催は中止となってしまったが、機能訓練のための自宅訪問を通して自宅での困りごとやニーズを聞く機会を持つことで、日々のケアに活かすことが出来た。また、関係機関と情報を共有し、ご利用者支援に活かすことが出来た。

4. 地域との関わり

新型コロナウイルス感染予防の為、地域活動への参加は出来なかったが、地域とのコミュニケーションが途絶えることのないよう関わっていくことを確認した。

5. 適正な運営

収支を意識し年間目標としていた稼働率 91.3%を達成することができたが、冬場のご利用者の体調面の変化があり 90%を下回る月があった。

事業実績 (定員 25 名)

| | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 |
| 営業日数 | 26 | 26 | 26 | 27 | 26 | 26 | 27 | 25 | 25 | 24 | 24 | 27 | 309 |
| 最大利用 | 650 | 650 | 650 | 675 | 650 | 650 | 675 | 625 | 625 | 600 | 600 | 675 | 7725 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 可能人数 | | | | | | | | | | | | | |
| 延利用人数 | 604 | 589 | 602 | 610 | 614 | 612 | 640 | 582 | 556 | 524 | 524 | 597 | 7054 |
| 一月当たり実人員 | 80 | 73 | 79 | 79 | 79 | 79 | 74 | 78 | 74 | 71 | 68 | 74 | 908 |
| 一日当たり利用人数 | 23.2 | 22.7 | 23.2 | 22.6 | 23.6 | 23.5 | 23.7 | 23.3 | 22.2 | 21.8 | 21.8 | 22.1 | 22.8 |
| 稼働率 | 92.9 | 90.6 | 92.6 | 90.4 | 94.5 | 94.2 | 94.8 | 93.1 | 89.0 | 87.3 | 87.3 | 88.4 | 91.3 |

※ 合計欄のうち、一日当たり利用人数及び稼働率は年間平均

※ 令和元年度平均稼働率 87.9%

〈 京都市百々老人デイサービスセンター 〉

1. 利用者の能力を活かすケアの実践

- ①本人の意向（自己決定権の尊重）や能力を活かすための情報共有を行い、日々のケアの実践に繋がった。
- ②個々の能力の維持向上をクローズアップし、デイでの役割を担っていただく取り組みを実施した。
- ③日々のケアの実践に繋げるため、すべてのご利用者の「めざす生活目標」を設定した。
- ④百々小学校校舎利用のハード面の強みを活かした、セパレートケア（1階、2階フロアの活用）の取り組みを始めた。
- ⑤サービスの質を把握する機会（ご利用者満足度の把握）を実施した。

2. 介護者の負担軽減

- ①介護者の介護負担軽減につながる機会とするため、気づいたことなどをアドバイスした。
- ②介護者の状況を共有するために、担当ケアマネジャーと積極的に連携を図ることが出来た。

3. 地域支援の実践

新型コロナウイルス感染予防の為に、介護、医療に関わる関係者や百々小学校や児童館等との交流や、事業所の機能（「人」「場所」「専門性」）を活かした地域貢献の実践は出来なかった。

4. 事業所間連携

山科エリア（西野の家「はなさんち」通所介護事業所、百々居宅介護支援事業所）の事業所機能を活かしたご利用者同士の交流や、計画していた合同勉強会や職員間の交流の実践は出来なかった。

5. 支援者の専門性のスキル向上

- ①身体介護、認知症ケアの知識、技術を高めるため、定期的に学びの機会を作ることが出来た。
- ②事業所独自の「百々デイサービス要綱（ケア方針）」や「高齢者の関わり方指針」を策定し、実践に繋ぐことが出来た。

6. 稼働率の安定

- ①新規ご利用者を積極的に受け入れるとともに心身状態の不安定な方も多く受け入れた。
- ②入院者や体調不良による利用キャンセルも多く、新型コロナウイルス感染症による利用控えが続き、経営的な事業継続指標となる稼働率 80%に達することができたのは、10月・11月のみであり、年間の平均としては 73.9%であった。
- ③事業所の人、場所、専門性を活かした持続可能な事業模索していく必要がある。

事業実績（定員 25 名）

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 営業日数 | 26 | 26 | 26 | 27 | 26 | 26 | 27 | 25 | 25 | 24 | 24 | 27 | 309 |
| 最大利用可能人数 | 650 | 650 | 650 | 675 | 650 | 650 | 675 | 625 | 625 | 600 | 600 | 675 | 7725 |
| 延利用人数 | 402 | 462 | 473 | 473 | 477 | 507 | 544 | 522 | 491 | 410 | 424 | 523 | 5708 |
| 一月当たり実人員 | 58 | 55 | 62 | 61 | 61 | 62 | 65 | 68 | 69 | 60 | 64 | 66 | 751 |
| 一日当たり利用人数 | 15.4 | 17.7 | 18.1 | 17.5 | 18.3 | 19.5 | 20.1 | 20.8 | 19.6 | 17.0 | 17.6 | 19.3 | 18.5 |
| 稼働率 | 61.8 | 71.0 | 72.7 | 70.0 | 73.3 | 78.0 | 80.5 | 83.5 | 78.5 | 68.3 | 70.6 | 77.4 | 73.9 |

※ 合計欄のうち、一日当たり利用人数及び稼働率は年間平均

※ 令和元年度平均稼働率 65.5%

〈 同和園ホームヘルプステーション 〉

(介護保険事業、日常生活総合支援事業)

1. 自立支援を意識した更なるサービスの向上

① ICFを用いたアセスメントについて研修を行った上で、厚生労働省より発出された「自立支援のための見守りの援助」について再確認を行った。

②ご利用者本人のご自宅での生活場面をしっかりと確認し、ご本人のストレングスについて事業所内で共有した。また、担当ケアマネジャーとも連携し、ご利用者の自立支援に向けての援助が意識でき、訪問介護員の専門性の向上が図れた。

2. 中・重度ご利用者に対応した介護技術の向上

定期研修において、リハビリ室と連携し介護技術研修を複数回実施した。

人の体の動きについての基本的部分から、移動、移乗、ベッド上でのポジショニングや排泄介助など、中・重度ご利用者への支援をスムーズに行えるよう知識、技術の向上を図った。

3. 障害支援サービスの再開

新型コロナウイルス感染拡大防止策を徹底することや、介護保険事業継続について尽力することが優先され、障害支援サービス再開に取り組むことができなかった。また、職員に複数名退職者が出たことにより障害支援サービスに割ける人員の確保も難しい状況となり、人員確保が喫緊の課題となっている。

4. 財政基盤の安定化

居宅介護支援事業所のケアマネジャー及び他の事業所の担当ケアマネジャーとの連携を密接に図り、多くのケース相談や依頼を受けることができた。職員会議等において、数値目標に向かっての業務の意識付けが図れた。

事業実績 (介護保険法：訪問介護)

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 | 平均 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-------|
| 延べ人数 | 609 | 686 | 672 | 697 | 690 | 675 | 725 | 697 | 761 | 713 | 653 | 708 | 8286 | 690.5 |
| 実人員 | 58 | 58 | 61 | 66 | 67 | 69 | 75 | 76 | 79 | 79 | 75 | 74 | 837 | 69.8 |

※ 令和元年度 月平均延べ人数 487.2名

※ 令和元年度 実人員 47.0名

事業実績（総合支援事業：介護型ヘルプサービス、生活支援型サービス）

①介護型ヘルプサービス

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 | 平均 |
|------|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|------|
| 延べ人数 | 76 | 95 | 102 | 98 | 87 | 94 | 88 | 97 | 97 | 85 | 88 | 96 | 1103 | 91.9 |
| 実人員 | 13 | 14 | 18 | 17 | 17 | 17 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 18 | 209 | 17.4 |

※ 令和元年度 月平均延べ人数 58.4名

※ 令和元年度 実人員 12.2名

②生活支援型サービス

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 | 平均 |
|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|------|
| 延べ人数 | 44 | 48 | 45 | 48 | 73 | 51 | 66 | 59 | 60 | 50 | 66 | 70 | 680 | 56.7 |
| 実人員 | 10 | 11 | 11 | 11 | 12 | 12 | 26 | 13 | 16 | 13 | 15 | 15 | 165 | 13.8 |

※ 令和元年度 月平均延べ人数 21.4名

※ 令和元年度 実人員 5.3名

〈井戸端ステーション〉

（支え合い型サービス、地域貢献事業）

1. 地域貢献事業

井戸端ステーションでサロンや食事会、買い物バスの実施、北醍醐まちかどステーション運営委員会に参加し地域の方々と共に実施した「まちかどマルシェ」などの企画を行っていたが、新型コロナウイルス感染予防の為、ほとんどの取組みや行事が中止となり、一時期井戸端サロンのみ開催ができた。地域イベントなども全て中止となったため、地域との関わりを持つことが出来なかった。

2. 支え合い型ヘルプサービス

法人内支え合い型ヘルプサービス従事者養成講座を企画していたが、新型コロナウイルス感染予防の為、開催に至らなかった。京都市の研修も中止となり従事者の確保ができない状況の中依頼件数は増加しており、従事者不足の中事業継続の困難性がある。

事業実績 (総合支援事業：支え合い型ヘルプサービス)

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 | 平均 |
|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|------|
| 延べ人数 | 23 | 29 | 31 | 30 | 27 | 29 | 25 | 22 | 25 | 27 | 26 | 32 | 326 | 27.2 |
| 実人員 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 72 | 6 |

※ 令和元年度 月平均延べ人数 17.8名

※ 令和元年度 実人員 4.3名

〈 同和園訪問看護ステーション 〉

1. ご利用者の健康の維持向上のための体調管理・医療ケア

①ご利用者個々の身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的な背景の情報共有（朝・夕のミーティング、午前訪問終了後にミニカンファレンス）を毎日実施し、ご利用者や介護者の健康状態の管理・病状の経過や環境整備など日常生活に対するアドバイス、不安軽減のための傾聴などスタッフ全員で役割分担し敏速に対応できた。役割分担することでスタッフの業務（精神的・身体的）負担の軽減にもつながった。

②治療方針・病状などは主治医（往診医）や医療機関（病棟・外来看護師）、薬剤情報・薬剤変更・薬剤の効能、副作用などは調剤薬局薬剤師、福祉用具の業者、訪問歯科、訪問栄養士などと連絡を密にとり、正確な情報をもとに適切なケアを安全に提供することができた。

2. 24時間365日安心して過ごすための介護者支援

①ご利用者や介護者が、日々（特に夜間・休日）に不安なく安心して過ごせるように、予測される病状の変化や心身の状況について、訪問時にわかりやすい言葉で繰り返しアドバイスし、不安が大きい時には適宜電話を入れるなど不安の緩和に努めた。

②終末期や緊急対応を必要とするご利用者及び介護者に対しては、24時間電話対応し必要に応じて夜間・休日も臨時に自宅へ訪問した。

③ご利用者や介護者の心身の状態把握に努め安心して過ごすことができるよう、常に主治医やケアマネジャーなど多職種と密接に連絡をとりあった。

3. 専門的な知識・技術・倫理の向上

①ミーティングなどで疾患や病状の経過、処置の方法、本人及び介護者の意向をスタッフ間で共有・検討し、ご利用者のニーズに沿った内容の勉強会を月1回以上行った。

②自宅で看取りをしたご利用者のケアの振り返りを、他事業所・主治医・ケア

マネジャーなどに書面で記載してもらい、関係した多職種の方たちの思いを共有することで多くの気づきがあり、スタッフのグリーフケアにもつながった。

- ③朝夕のミーティング・昼のカンファレンスを継続することで、支援内容やアプローチについて最善の方法を検討、共有することができ、より良いサービスを提供することができた。
- ④看護技術、新型コロナウイルス対応など専門分野の知識や医療・看護倫理についてオンライン研修・講義を聴講することで、スタッフ全員の日々の活動に活かすことが出来た。
- ⑤iPad 導入により個人のカルテの持ち出しをする必要がなくなり、個人情報管理に資するとともに、記録時間の短縮が図れ業務の改善に繋がった

事業実績

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 | 平均 |
|----------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 営業日数 | 30 | 31 | 30 | 31 | 31 | 30 | 31 | 30 | 31 | 31 | 28 | 31 | 365 | 30 |
| 延べ利用人数 | 355 | 433 | 491 | 498 | 423 | 407 | 507 | 496 | 417 | 358 | 320 | 361 | 5066 | 422.2 |
| 一月当たり 利用人員 | 61 | 63 | 67 | 71 | 61 | 64 | 63 | 61 | 54 | 54 | 54 | 54 | 727 | 60.6 |
| 一日当たり 利用人数 | 11.8 | 14.0 | 16.4 | 16.1 | 13.6 | 13.6 | 16.4 | 16.5 | 13.5 | 11.5 | 11.4 | 11.6 | — | 14.1 |
| 定期巡回・随時 対応型訪問介護 看護件数 | 10 | 10 | 13 | 13 | 12 | 11 | 11 | 12 | 11 | 12 | 12 | 11 | 138 | 11.5 |
| 自宅での看 取り件数 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 2 | 0 | 1 | 8 | 0.7 |

※ 令和元年度 平均延べ利用人数 328.1名

※ 令和元年度 平均一月当たり利用人数 50.7名

〈 同和園居宅介護支援事業所 〉

1. 書類管理の徹底

監査班を設置し、月に一度記録や書類の確認を行った。加算取得の根拠が明確になるように記録の記載方法の確認を行い、併せて記録のひな形の再構築を行った。新型コロナウイルス感染症予防の為、市老協居宅支援部会、介護支援専門員会、醍醐・山科の各事業所連絡会などは中止になったが、Z o o m会議等

を活用する中で開催された部会へは積極的に参加した。

2. 教育体制の構築

主任介護支援専門員が中心となり、ご利用者に適切なケアマネジメントの提供を行うため、質の向上や知見の平準化を目指した年間研修計画を作成したが、内部研修、外部研修とも休止され、十分な研修が出来なかった。

3. 自立支援を目指したケアプランの作成

百々居宅介護支援事業所と共にアセスメント班を設置し、昨年度に引き続き、ICFを用いたアセスメント表を作成する予定であったが、事業所間での十分な協議ができず、ICFの研修なども中止となった。

4. 退院時支援の強化

ご利用者の入退院についてミーティングで報告し、帰宅後の生活について協議を行い、スムーズな退院支援を行うことが出来た。ホワイトボードに入退院者を記載し「見える化」したことで、記録の明確化を図り、加算算定にも繋げることができた。

5. 地域支援の取組み

地域課題についての内部研修を行い、各ケースから抽出した地域課題を意識できるよう取り組んだ。しかし、地域イベントや山科醍醐主任ケアマネネットワークなども中止となり、地域包括支援センターや他法人との連携も難しく地域支援に取り組めなかった。

事業実績 同和園居宅介護支援事業所

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 | 平均 |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-------|
| 給付管理件数 | 194 | 190 | 194 | 197 | 195 | 200 | 202 | 199 | 193 | 203 | 198 | 190 | 2355 | 196.3 |
| 受託件数 | 33 | 33 | 34 | 34 | 34 | 35 | 35 | 35 | 33 | 32 | 32 | 33 | 403 | 33.6 |
| 合計件数 | 227 | 223 | 228 | 231 | 229 | 235 | 237 | 234 | 226 | 235 | 230 | 223 | 2758 | 229.8 |

※令和元年度 月平均合計件数 253.8 件

〈百々居宅介護支援事業所〉

1. 書類管理の徹底

台帳を整理し書類の管理を行ったが、記録のひな形についての再構築を行うことは出来なかった。

2. 自立支援を目指したケアプランの作成

法人の理念である「その人らしさの実現」に向けた研修を実施したが、目標指向型ケアプランを作成することができなかった。

3. 退院時支援の強化

入退院ケースを可視化し、各加算取得の状態を確認し、退院時の医療機関との連携を意識した。

4. 地域支援の取組み

①山科区内のケアマネジメントの質を高めるため山科の事業所連絡会に参加し、研修を企画したが、予定通りに実施することは出来なかった。

②山科区在宅医療介護連携支援センターの運営会議に参画し、緊急情報シートの作成に取り組んだ。

③法人内地域ケア委員会の活動は実施出来なかった。

5. 地域性に即した支援体制の構築

①新規ケースの動きを可視化し、各ケアマネジャーが適切に新規ケースに携わることが出来た。

②ケアマネジャーとしての活動内容がわかるよう、ご利用者や地域住民の方に配布できるようリーフレットを作成した。

事業実績 百々居宅介護支援事業所

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 | 平均 |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-------|
| 給付管理件数 | 175 | 177 | 176 | 175 | 170 | 168 | 170 | 172 | 173 | 170 | 175 | 181 | 2082 | 173.5 |
| 受託件数 | 12 | 12 | 12 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 15 | 15 | 16 | 17 | 164 | 13.7 |
| 合計件数 | 187 | 189 | 188 | 186 | 182 | 181 | 184 | 187 | 188 | 185 | 191 | 198 | 2246 | 187.2 |

※令和元年度 月平均合計件数 138.8件

〈 配食サービス 〉

1. 配食数の推移

職員体制上、配食終了時刻を早めたこと等により、配食数は前年度に比べて平均配食数で約90食の減少となった。

2. 献立の内容

献立内容や味付け、硬さ等を確認し、特別食（粥・刻み等）を利用されている方への配食ミスが生じないように、随時、栄養士や担当相談員と協議し、効率よく担当者に周知できる方法を確立した。

3. 安否確認機能

ご利用者への手渡しによる安否確認機能を継続した。配達時に不在の場合や

転倒等の状態が生じていた際は、ご家族や担当ケアマネジャーへ連絡を行い、必要時には救護支援を行った。

事業実績（配食数）

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 | 平均 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-------|
| 配食数 | 662 | 679 | 611 | 575 | 523 | 511 | 519 | 518 | 527 | 501 | 437 | 468 | 6531 | 544.3 |
| 実人員 | 35 | 34 | 33 | 34 | 29 | 29 | 29 | 30 | 32 | 33 | 30 | 26 | 374 | 31.2 |

※令和元年度 平均配食数 637.3 食

※令和元年度 平均実人員 36.3 名

【京都市醍醐北部地域包括支援センター】

1. 地域支援

①地域ケア会議

新型コロナウイルス感染予防のため、対応変更を余儀なくされ、規模の大きな「日常生活圏域ごとの会議」は見送ることになった。

一方、「個別地域ケア会議」は例年よりも多く開催し、京都市が「健康長寿すこやかプラン」に令和5年度目標として掲げている「年間6件」以上開催した。

- ・個別地域ケア会議：10回
- ・学区地域ケア会議：1回

②学区民生児童委員協議会の会議に参加して意見交換を行った。

- ・学区民協への会議参加回数

| 北醍醐 | 醍醐 | 醍醐西 | 池田 | 池田東 |
|-----|----|-----|----|-----|
| 10 | 1 | 1 | 0 | 4 |

2. 介護予防

- ①住民主体の介護予防事業開催に向け必要な助言を行い、側面的に支援することができた。
- ②介護予防体操の普及（DVD頒布・チラシ配布・ポスター掲示依頼）に協力した。
- ③介護予防 Zoom 教室を地域住民向けに年6回開催した。
- ④介護予防に資する目的で、新しいケアマネジメントを実施した。

3. 自立支援相談機能

- ①対人援助力・ケアマネジメントに関する内部研修を実施した。
- ②地域リハビリテーションセンターをスーパーバイザーに招いてケアマネジメント研修、個別援助技術研修を実施したが、外部講師による面接技術研修は新型コロナウイルス感染予防の為、延期とした。

4. 権利擁護

- ①山科区と協働で権利擁護ネットワークにおいて、精神科クリニックのデイケアの作業療法士を講師に招き、勉強会を開催した。
- ②日常生活圏域の居宅介護支援事業所職員を対象として、虐待の発見や通報について研修を実施した。
- ③醍醐南部包括支援センター・醍醐支所健康長寿推進課と合同で弁護士を招き、虐待対応の具体的手順等について勉強会を開催した。

5. 認知症支援

- ①地域の金融機関等を対象に認知症サポーター養成講座を開催した。
 - ・認知症サポーター養成講座受講者：70名
 - ・認知症サポーター養成講座開催回数：6回
- ②カフェ de おれんじサロンに参画し、初期認知症当事者支援を行った。
(7月・10月・3月開催)

6. 災害時支援

災害時の対応マニュアルの策定は継続課題となった。

事業実績

●総合相談支援

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 | 平均 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|
| 件数 | 466 | 450 | 457 | 465 | 449 | 460 | 460 | 434 | 458 | 440 | 417 | 431 | 5387 | 449 |

※令和元年度平均件数：433件

●介護予防支援・介護予防ケアマネジメントA給付管理件数

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 | 平均 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|
| 件数 | 383 | 390 | 387 | 386 | 385 | 383 | 387 | 384 | 392 | 381 | 382 | 385 | 4625 | 385 |
| うち委託 | 102 | 99 | 98 | 97 | 98 | 92 | 92 | 92 | 91 | 89 | 88 | 91 | 1130 | 94 |

※ 令和元年度平均件数：376件（うち委託90件）

● 1人暮らし高齢者全戸訪問事業

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 |
|--------|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 訪問件数 | 0 | 0 | 57 | 22 | 21 | 27 | 40 | 42 | 44 | 16 | 13 | 18 | 300 |
| 同意書取得数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 1 | 5 |

※令和元年度訪問件数 338件 同意書取得数 9件

● 虐待相談件数

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 |
|------|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|----|
| 相談件数 | 6 | 9 | 4 | 0 | 4 | 3 | 9 | 1 | 6 | 3 | 1 | 3 | 49 |

※令和元年度 38件

● ケアマネ支援件数

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 |
|------|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|----|
| 相談件数 | 2 | 1 | 1 | 2 | 4 | 1 | 4 | 1 | 4 | 2 | 3 | 1 | 26 |

※令和元年度相談件数 17件

【コミュニティカフェ】

〈コミュニティカフェ「俱会一処」〉 〈コミュニティカフェ工房「ひのぼっこ」〉

1. コミュニティカフェの機能

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、行事等への場所の提供等の機能や、独自の活動を実施することが出来なかった。

2. 売店機能の強化

施設を利用されている方などのニーズに応え、日用品等を中心としたアイテムの充実を図った。

3. 安心安全で美味しい食事の提供

新型コロナウイルス感染予防の為、俱会一処においてフロアを職員休憩室として開放するとともに、テイクアウト中心の食事を提供した。

〈コミュニティカフェ「俱会一処」〉

月別売上

(単位:千円)

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 | 平均 |
|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|
| 売上計 | 885 | 1285 | 1200 | 1532 | 1312 | 1362 | 1635 | 1420 | 1564 | 1285 | 1343 | 1665 | 16488 | 1374 |

〈 コミュニティカフェ工房 ひのぼっこ 〉

月別売上

(単位:千円)

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 | 平均 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|
| デイ委託 | 476 | 464 | 475 | 484 | 482 | 480 | 502 | 457 | 440 | 413 | 407 | 468 | 5548 | 462 |
| カフェ | 139 | 73 | 155 | 177 | 148 | 155 | 219 | 155 | 186 | 120 | 135 | 219 | 1881 | 157 |
| 合計 | 615 | 537 | 630 | 661 | 630 | 635 | 721 | 612 | 626 | 533 | 542 | 687 | 7429 | 619 |

【 法人本部 】

1. 特養を中心に介護職員の採用活動を継続するとともに、法人独自の奨学金制度を活用し4名の外国人留学生等の進学を支援した。
2. 安定した事業運営ができるよう財務基盤の立て直しを目標としたが、特養において休止している3つのユニット以外においても、約10名の欠員が生じた状態が継続したことや、同和園デイサービスセンターにおいて新型コロナウイルス感染症の影響による利用控え等により稼働状況が低迷したことなどから、収支のバランスを図ることが出来なかった。
3. 100周年記念誌及び令和3年12月11日(土)の記念事業に向け検討を進めた。

〈 総務部 〉

1. 建物・設備の老朽化に伴う設備更新、及び必要な建替えの中長期的な計画
 - ①浴室リフトの更新
特別養護老人ホーム及び養護老人ホーム、短期入所事業所、同和園デイサービスセンターの浴室リフトの次年度更新について実施計画を検討した。
 - ②西野の家「はなさんち」の雨漏れを防止するため、屋根修理を行った。
 - ③ナースコール設備及び電話装置更新
特別養護老人ホーム及び養護老人ホームのナースコール設備及び施設全体の電話装置の、次年度更新について実施計画を検討した。
 - ④空調設備更新
弐番館の空調設備である、HRC1号機について主装置の修理を行った。
 - ⑤新型コロナウイルス感染予防対策
在宅サービス事業所及び送迎車両に対して iPad 及びオゾン発生装置を装備、全部署に消毒液の配布、消毒液・マスク・使い捨て手袋等感染予防品を備蓄、パーティションを導入する等、感染予防対策の環境を整えた。

2. 職員寮の新設

壱番館西側空地に西職員寮（仮称）12室の新設整備について、国の宿舍整備補助金を京都市に申請した。

3. 施設の保守管理・修繕、水道光熱費等の削減

①保守管理、修繕が必要となり業者に依頼する場合は相見積もりをとるなど常にコスト削減を意識した。

②水道光熱費、需用費等経費削減を全部署に働きかけた。

4. 火災、水災害、土砂災害、地震等を想定した訓練及び福祉避難所訓練の実施

新型コロナウイルス感染予防対策を講ずる中で夜間想定も含めて2回の火災避難訓練を実施した。

〈 人事部 〉

1. 人員確保の取組み

①令和3年4月新規採用者は新型コロナウイルス感染予防対策の為、対面での就職フェアや福祉施設説明会の機会が減ったこともあり、最終採用者は8名にとどまり、他産業からの就職希望者が多かったが、中途採用者について例年より少ない状況となった。

②インターンシップについて、施設内における体験の代わりにリモートで実施し、介護の仕事の魅力が十分伝わるように対応した。

③中国からの5名の技能実習生は夜勤が出来るレベルになり、介護現場に定着出来てきている。2号技能実習に向けて、介護技能評価試験の初級に全員合格し、日本語能力検定N2に4名が合格するなど日々成果が出ている。介護奨学生の4名は、介護福祉士養成校に進学後、進級を果たすことができている。留学生アルバイトが多数勤務している。

④ミャンマーからの技能実習生の受入れを、令和2年12月頃を予定していたが、自国での日本語試験の開催が延期になったことから申請手続きが進まず、加えて国内でのクーデターの影響もあり、日本への入国が令和3年度後半になる状況にある。

2. 人材育成の取組み

①介護福祉士の養成のため、介護福祉士実務者研修を開催するとともに、介護福祉士受験対策講座のため3日間の短期講習会を実施し、8名合格することが出来た。

②キャリア段位制度の導入に向けて担当介護課長、介護リーダーがアセッサーの資格を取得し、技能実習生のOJTを通して、介護技術の評価、指導スキルの向上に取り組んだ。

3. 適正な労務管理

- ①時間外勤務等の管理が適正に行われるよう管理職と情報の共有を図った。
- ②年次有給休暇について、5 日以上の取得計画書の提出を求め、休暇取得に繋がるよう取り組んだ。
- ③働き方改革の一環である同一労働同一賃金の動向に注視し、アルバイト・パート職員就業規則、再雇用職員就業規則の見直しを行った。
- ④子育てをしながら継続して働き続けられるよう、3 歳までの時短勤務を 6 歳まで取得できるよう変更し、子育て支援の充実を図った。

4. 人事評価制度の再構築

現行の人事考課制度を踏まえ、新たな人事評価制度の構築に取り組んだ。

〈 国際人材育成支援室 〉

1. 外国人介護職員採用状況

【全体：17名】

- ◇技能実習生：5名（中国）
- ◇介護留学奨学生：3名（ベトナム2名、韓国1名）
- ◇介護留学奨学生候補生：4名（ミャンマー2名、インドネシア1名、中国1名）
- ◇留学生アルバイト5名（ミャンマー3名、インドネシア1名、ベトナム1名）

2. 外国人介護人材確保育成支援

（1）技能実習生の受入れ

- ①令和2年2月より中国から5名（男性2名、女性3名）受入れ。
 - ・5名全員1号実習評価試験に合格、令和3年1月より2号実習スタート
 - ・令和2年12月のJLPT（日本語能力検定試験）N2に4名が合格
 - ・令和3年2月、5名のうち3名は夜勤業務を含むすべての勤務形態に入っており、残りの2名に関しても現在指導中
- ②ミャンマーからの技能実習生受入れ予定
 - 第1期生として4名、2期生として6名、合計10名の契約を行っているが、令和2年4月以降世界的な新型コロナウイルス感染症によるパンデミック及び令和3年2月に発生したクーデターの影響により、ミャンマー国内での活動が停止状態にあり、予定が立たない状況にある。
 - ・1期生4名、2期生4名は日本語能力検定試験N4レベルに合格し、入国申請作業進行中
 - ・2期生のうち1名は、学習態度不良につき契約解除し、もう1名は12

月の日本語能力検定試験 N4 レベルに不合格のため、3月の試験に再挑戦することになるが、入国時期は他の8名とは別になる予定

(2) 介護留学奨学生の受入れ

①令和2年度の介護留学奨学生

介護福祉士養成学校へ入学する介護留学生に対する奨学金制度については、現在日本人1名、外国人3名（ベトナム2名、韓国1名）に貸与している。

韓国人留学生については、令和3年度は同和園独自の奨学金の支援は受けず、卒業後に当法人へ就職することは見送っている。

②令和3年度の介護留学奨学生候補生

令和3年度4月の入学希望者は4名（ミャンマー2名、インドネシア1名、中国1名）

- ・3名は、日本語学校に在籍し、留学生としてアルバイトをする中で、介護福祉士取得の奨励を受け、養成校へ入学を決めている。
- ・1名（中国）は、養成校から紹介を受けている。

*ミャンマー本国より直接介護留学奨学生となることを希望する者があり、手続きを進めたが、経済的な理由で在留資格取得困難となり、今後の課題となるケースとなった。

(3) その他の外国人職員受入れ

①日本語学校留学生のアルバイト採用

新型コロナウイルス禍の中、留学生のアルバイトが困難な状況にあり、当園においてアルバイトを希望する多くの留学生が生じている。

現在、5名（ミャンマー3名、ベトナム1名、インドネシア1名）がアルバイトとして勤務している。

〈 経理部 〉

1. 安定した資金繰りと正確な会計処理

各事業の事業活動の進捗状況を踏まえ、正確な会計処理と予算実績管理を行い、事業継続ができるよう資金繰りを行った。財務基盤の立て直しまでには至らず施設整備積立金は積み立てることができなかった。

2. 会計の透明性の確保

会計監査人による監査、監事会による監査を受け、透明性の確保を図ることが出来た。

3. 事業計画に沿った施設整備等

施設整備や資産の更新について、厳しい収支状況を踏まえ、優先順位を付けて

必要最小限の施設設備を更新した。

- (1) 壱番館エレベーター設備 2 基の更新
 - (2) 弐番館空調設備（HRC 1 号機）の分解洗浄
 - (3) 厨房設備機器の一部更新
 - (4) 車椅子、ベッド等介護機器の更新
4. 外国人技能実習生等の確保に係る費用負担並びに奨学金規程に基づく修学支援制度により奨学金を貸与した。

同和園施設内保育園「ちくりん」実績（定員 6 名）

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 | 平均 |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 開園日数 | 21 | 28 | 23 | 21 | 25 | 21 | 24 | 25 | 21 | 29 | 28 | 31 | 297 | 24.75 |
| 最大可能利用園児者数 | 180 | 186 | 180 | 186 | 186 | 180 | 186 | 180 | 186 | 186 | 168 | 186 | 2190 | 182.5 |
| 延べ利用園児者数 | 25 | 28 | 27 | 26 | 30 | 29 | 28 | 38 | 36 | 62 | 66 | 74 | 469 | 39.1 |
| 一日当たり利用園児数 | 1.2 | 1.0 | 1.2 | 1.2 | 1.2 | 1.4 | 1.2 | 1.5 | 1.7 | 2.1 | 2.4 | 2.4 | — | 1.6 |
| 稼働率 | 13.8 | 15.0 | 15.0 | 13.9 | 16.1 | 16.1 | 15.0 | 21.1 | 19.3 | 33.3 | 39.2 | 39.7 | — | 21.4 |

※令和元年度 平均稼働率 38.1%

※令和元年度 延べ利用園児者数 726 名（一日当たり利用園児数平均 2.3 名）

以上